



落花生

芝山経済センター
営農指導員 能勢 浩一

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



トウモロコシ

やさいの里営農センター
営農指導員 椎名 康隆

● **マルチ除去**
収量・品質が低下しないよう、開花期(圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始めた頃)後、7~10日頃にマルチ

● **畑の準備・播種**
落花生は連作障害が出やすい作物なので、他の作物と輪作してください。基肥には落花生専用(5-15-20)を10ア当たり60キ、苦土石灰を10ア当たり60キ施用します。土壌診断を行い、石灰が不足していた場合は、土壌pHが6.0~6.5になるよう矯正してください。準備ができたなら、ベッドを作ってマルチを敷き、畝間60~70センチ、株間27~30センチで1~2粒ずつ播種します。鳥害防除対策として、キヒゲンローメフロアブルでの種子消毒を播種前に行います。

● **栽培のポイント**(表②参照)

● **干葉県の特産品・落花生**
千葉県は落花生の生産量全国1位(全国生産量約80%)を誇っていますが、生産量は年々減少し、平成27年には9,590トンと、この10年間で約3割減少しています。一方で、国内産への需要が高まっており、販売単価はここ数年、高値での取引がされており、今後作付けの拡大が望まれています。

● **紋枯病**(写真①参照)
高温多湿で発生します。地際部から発生し、病斑は周縁部褐色で葉鞘を伝わり上部へ病症が進みます。この菌は菌核で土壌中に残り、次年度の感染源となります。6月下旬~7月では発生が予想されますので、リゾレックス水和剤等での防除を行ってください。

● **病害虫防除**(表①参照)
アブラムシ類
イネ科雑草から飛来し、5~6月に多くなります。周辺の雑草防除を心掛け、アブラムシの住む場所をなくしましょう。

● **雄穂の除去**
近年、品種により草丈の高いものがありますので、強風による倒伏が懸念されます。対策として、花粉の飛散後、雄穂を除去し、倒伏の軽減を図ります。

● **収穫の目安**
トンネル栽培では、絹糸抽出(圃場全体の50%以上)から23~25日が目安です。マルチ栽培では19~21日が目安です。収穫後期では、過熟に注意してください(品種や温度に影響されるため、口数はあくまでも目安)。

● **アブラムシ類**
イネ科雑草から飛来し、5~6月に多くなります。周辺の雑草防除を心掛け、アブラムシの住む場所をなくしましょう。

● **アワノメイガ**(写真②参照)
防除は①雄穂出穂初期、②雄穂出穂最盛期(約10日後)、③雌穂絹糸出穂最盛期の時期がポイントです。
①、②の時期はパダン粒剤4またはプレバソンフロアブル5を散布します。
③の時期は収穫前口数を考慮して薬剤散布しましょう。

● **乾燥**
掘り取り後は、5~7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆います。また、平積みへトンネルをかける方法もとられています。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。

● **かん水**
7月下旬~8月中旬(結莢~莢肥大期)に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生します。畑が乾いているときは、1回当たり30~40リットルかん水してください。

● **病害虫防除**
そうか病や褐斑病に注意し、トップジンM水和剤(1500~2000倍、収穫7日前まで、4回以内)等で防除してください。「ナカテウタカ」は、白絹病にやや弱いので注意してください。

● **中耕・培土(石灰施用)**
開花初期から1~2回、中耕・培土を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。また、石灰が不足していると空莢や未熟莢が増加するため、培土時に苦土石灰を10ア当たり40~60キ施用してください。

● **オオタバコガ**
トウモロコシでは若い穂が好まれ、穂先が特に加害されます。大きくなる薬剤が効きにくいいため、発生初期に残効性のあるプリンスフロアブルを散布します。収穫近くに発生が確認された場合は、フェニックス顆粒水和剤を使用します。6月下旬~7月での収穫では、特に発生が多くなりますので、1週間間隔での防除が必要です。



2月の分析経過について
合計2点
残留農薬分析点数
多成分一斉分析
ネギ 1点
ほうれん草 1点
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。
土壌診断点数 合計44点

表② 落花生の栽培暦

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
千葉半立	○	○				□
カテ1カ	○	○				□
主な作業	基肥	播種	中耕・培土 マルチ除去		収穫	乾燥・調整

○...播種 □...収穫、乾燥・調整

掘り取り後は、5~7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆います。また、平積みへトンネルをかける方法もとられています。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。

表① トウモロコシの病害虫防除例(トンネルマルチ栽培)

時期	作業	発生病害虫	農薬名	使用基準	特徴	希釈倍数	対象病害虫
3月	マルチ展張 播種						
4月	トンネル除去		モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	残・浸・速	2000~4000倍	アブラムシ(出穂前)
5月		アブラムシ類 オオタバコガ アワノメイガ	アグロスリン乳剤	収穫7日前まで	接・残	1000~2000倍	アワノメイガ+アブラムシ
			パダン粒剤4	収穫7日前まで	浸	6kg/10a	アワノメイガ(株の上から均一に散布)
			プレバソンフロアブル5	収穫前日まで	残・速・食・接	2000倍	アワノメイガ(雄穂開花終了後)
6月	収穫		プリンスフロアブル	収穫14日前まで	残・速・食・接	2000倍	アワノメイガ+オオタバコガ
			リゾレックス水和剤	収穫14日前まで		1500倍	紋枯病
			トレボン乳剤	収穫7日前まで	接・残	1000倍	アワノメイガ
			フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	食・残	2000~4000倍	アワノメイガ・オオタバコガ
			モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	残・浸・速	2000~4000倍	アブラムシ

※特徴欄の略字 残...残効性 浸...浸透移行性 速...速効性 食...食毒 接...接触毒